

市電の歩み

大正7年 札幌電気軌道株式会社が、3路線、保有車両24両で電車運行を始める

昭和2年 札幌市が電車事業を買収。路線の拡張が進む

昭和39年 鉄北線の延長により、路線延長が25.03キロと史上最長になる。保有車両は154両、1日に28万人が乗車

昭和46年 地下鉄南北線が開通。市電路線の縮小が始まる

昭和49年 北24条～新琴似駅前間の路線が廃止され、現在の路線となる



市営化 昭和3年ころ 乗車券販売所

昭和2年12月、電車事業が札幌電気軌道株式会社から札幌市に譲渡された。当時の乗車料金は片道6銭。年間乗客数は延べ1,600万人に達した (写真：電車事業所)

にぎわいの中心 大正15年 南1条西4丁目

札幌随一の繁華街である4丁目十字街。老舗の商店が多く集まっていた。左手前に見える京屋呉服店の跡地に、昭和7年、三越百貨店が開店した (写真：札幌市教育委員会文化資料室)



市電の父 大正8年 助川貞次郎肖像

助川貞次郎は、札幌の交通網整備に大きな業績を残した実業家である。万延元年(1860年)に現在の茨城県に生まれ、明治13年に北海道に渡った後、醸造業や不動産業などで財を成す。37年に共同で馬車鉄道会社を起こすと、後身の札幌電気軌道株式会社の専務取締役として手腕を発揮し、草創期の市電発展に貢献した (写真：助川利夫氏)



札幌の顔 大正9年 札幌駅前

札幌のメインストリートである駅前通にも、かつて市電が走っていた。写真の駅舎は明治41年に建設された3代目の建物で、ルネサンス様式の格調高い姿が市民に愛された (写真：小熊米雄氏)

緑の中へ 昭和35年 南21条西16丁目

現在の電車事業所の周辺。藻岩山のゆるやかな尾根が眼前に広がっている (写真：富樫俊介氏)

